

## 第 1 回検討会議でいただいた意見等について

## 1 福岡県観光の現状と課題について

■ 福岡県の観光を考える上では、福岡を拠点として、九州全体を周遊してもらうという発想も必要。「九州の観光」における福岡県の役割や、現状などを示す資料が欲しい。

■ 福岡に入域した観光客が、どのルート（空港）から入ってきて、どこに行ったかを分析することで、新たな発見がある。議論の参考とするため、データを整理し、資料として提供してもらいたい。

■ 福岡県を訪れる客には、観光客だけでなくビジネス客など多様な主体がいる。そうした方面へのアプローチを図るためにも、多様な主体を想定した現状分析が必要ではないか。

## 2. 福岡県の観光振興に向けた施策の方向性について

■ 九州一体となった取組みということを考えると、福岡県観光のライバルは三大都市圏やアジア圏。これらの地域と競うという視点で、施策を考えるべき。

■ 国等の議論においても、インバウンド拡大の議論に傾倒している印象を受ける。国内客の旅行拡大に向けた施策も検討してもらいたい。

■ 韓国からの入国が非常に多いという福岡県の特徴は、強みでもあるが政治状況等により弱みにもなり得る。マーケット拡大の取組みが必要。

■ 観光の持続可能性といった観点から、観光客だけでなく、その観光地を守る地域住民の住みよい環境づくりに対しても、施策を講じるべき。

■ 観光統計の整備が十分に進んでいない。市町村や観光協会等の支援強化のためにも、観光統計に力を入れてもらいたい。

■ 様々な主体が観光に取り組むときに、地域づくりの実行部隊となるDMOへの支援が必要。

■ 日本の観光産業の地位がまだまだ低く、観光業界に従事している方の給与水準も低い。観光産業の規模拡大（観光消費額の拡大）を目指すのであれば、給与の底上げなど、人材確保の取組みも必要ではないか。

■ キャッシュレスや労働力確保、人材不足対策としてのA I、I C T等を活用した施策も必要。

■ 商店街においても、交流人口の取り込み拡大は急務。具体的な取組みとして、キャッシュレス、Wi-Fi環境、多言語対応、ナイトタイムエコノミー等があるが、現場には資金、ノウハウ、情報等が不足している。そうした課題解消に向けた支援策を講じてもらいたい。

■ 健康診断と旅行を組み合わせる観光もありえるのではないか。

### 3. その他（財源確保策について）

■ 財政が厳しい状況の中、高齢化・人口減少に対応しつつ持続可能な施策を講じるためには、財政上、何らかの工夫が必要だと実感している。

■ 今後、宿泊税の議論となった際には、民泊も含め、事業者に不公平感が出ないようにしてもらいたい。